

計画事業番号	00465	事務事業名	消防車両等更新事業	担当部署	消防本部警防課	電話	6201
--------	-------	-------	-----------	------	---------	----	------

【基本情報】

事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務	根拠法令等	消防組織法第6条、消防力の整備指針第4条から第24条				
事務事業開始年度	—	個別計画等					
〃 終了予定年度							
ソフト・ハード区分	ソフト事業	会計区分	一般会計	補助単独区分	補助	新規継続区分	継続

【事業概要】

1 総合計画体系	(第 3 章) 美しい環境に つつまれた安全なまち	
	(第 5 節) 消防・救急体制の充実	
	(施策 1) 消防体制の充実	
2 対象		
3 目的と内容	複雑・多様化する災害及び大規模災害に対応した消防活動体制の確立のため、老朽化した消防車両を計画的に更新する。	
4 実施内容 (手 段)	28年度まで	平成24年度 水槽付ポンプ自動車 (大曲出張所配備) 平成25年度 高規格救急自動車 (消防署配備) 平成26年度 水槽付ポンプ自動車 (西の里出張所配備) 平成27年度 小型動力ポンプ付積載車(第3分団配備) 平成28年度 小型動力ポンプ付積載車(第1分団配備)
	29年度	昨年と同様であるが、緊急防災・減災事業債を活用し車両を更新する。 小型動力ポンプ付積載車(第4分団配備) 平成23年度導入の高規格救急自動車の事業費償還(北海道市町村備荒資金組合)

【事業の計画・実績】

平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
計画	実績	計画	計画	計画	計画	計画	計画
小型動力ポンプ付積載車更新(第1分団) H23事業費の償還	小型動力ポンプ付積載車更新(第1分団) H23事業費の償還	小型動力ポンプ付積載車更新(第4分団) H23事業費の償還	小型動力ポンプ付積載車更新(第4分団) H23事業費の償還	高規格救急車更新(大曲救急車) 小型動力ポンプ付積載車更新(第2分団)	高規格救急車更新(大曲救急車) 小型動力ポンプ付積載車更新(第2分団)	連絡車更新(車両名称:活動支援車に変更)	連絡車更新(車両名称:活動支援車に変更)

【評価結果・評価コメント】

総合判定		平成30年度に向けた具体的な方向性			評価区分
前年度 2次評価	現状継続	現状継続とする。			「拡大」 「現状継続」 「要検討」 「見直し」 「統合」 「休止・廃止」 「終了」
1次評価	現状継続	現状継続とする。老朽化した消防車両を更新計画に基づき事業を実施。			
2次評価	現状継続	現状継続とする。			

【事業費の推移】

(単位:千円)

			平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
決算額、当初予算額又は推進計画額			19,575		20,580		56,043		9,380	
事業額	直接事業費	国支出金	0		0		21,682		6,000	
		道支出金	0		0		0		0	
		地方債	13,700		16,000		0		0	
		その他特財	0		0		0		0	
		一般財源	5,875		4,580		34,361		3,380	
	① 合計	19,575		20,580		56,043		9,380		
人件費 (左側:一般、 右側:再任用)	② 人数(年間)	0.20	0.00	0.20	0.00	0.20	0.00	0.20	0.00	
	③ 1人当り年間平均人件費	8,400	4,500	8,400	4,500	8,400	4,500	8,400	4,500	
	④ =②×③	1,680	0	1,680	0	1,680	0	1,680	0	
総事業費①+④			21,255		22,260		57,723		11,060	

【評価指標】

指標名		単位	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
活動指標	①消防車両台数	目標値	16		16		16		16	
		実績値	16							
	②救急車両台数	目標値	3		3		3		3	
		実績値	3							
③	目標値									
	実績値									
④	目標値									
	実績値									
成果指標	① 消防自動車等更新台数 【指標の定義(算式等)】	目標値	1		1		2		1	
		実績値	1							
	② 【指標の定義(算式等)】	目標値								
③ 【指標の定義(算式等)】	目標値									
	実績値									

【評価項目】

チェック項目		評点	コメント
妥当性	・税金を使って行うこと(補助すること)が妥当ですか? ・上位の施策への貢献度は大きいですか? ・特定の団体の利益に偏っていませんか? 【評点欄】3妥当、2どちらかという妥当、1妥当でない 【コメント欄】理由を記入	3	震災、風水害等の大災害による被害の軽減を図るには、常備消防だけでは対応が困難なことから、老朽化した消防車両を最新資機材を装備した車両に更新することにより、消防活動全体の向上、強化が図れると同時に、消防団(市民)による市民の安全・安心を確保するために必要な事業であり、事業の妥当性や有効、公平性は確保されている。
達成度	・計画どおりに成果があがっていますか? 【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない 【コメント欄】理由を記入	3	消防業務は複雑多様化しており、職員、団員の災害対応に対する対応技術の向上や連携が必要であり、消防施設と資機材の近代化(最新化)は、災害に迅速に対応するために重要であり、消防活動全体の充実・強化につながっている。
成果向上	・成果が現状よりも向上する可能性がありますか? 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入	3	被雇用者(サラリーマン)の団員の増加によって、訓練回数や活動機会の減少により装備操作の熟練度の低下を防ぐために各種装備の操作性、軽量化の向上が必要であり、さらに効率的な消防活動を行うには、最新の消防車両、資機材に更新することが、被害を最小限に抑える。
経済性	・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありますか? 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入	3	当市の単独財源での整備では、財務負担が大きく、各補助金、交付金等の活用により、負担軽減を図るが、コスト削減は困難である。

【法律で実施が義務付けられている事務事業か】	<input checked="" type="checkbox"/> 法律の義務付けあり <input type="checkbox"/> 法律の義務付けなし
【民間活力の活用性評価】 (事業担当部局が評価)	<input type="checkbox"/> 民間等での実施または市民等との協働が可能である。 <input checked="" type="checkbox"/> 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。